



組資料 1 - 3

資料 1

東京2020 NIPPONフェスティバル 共催文化プログラムへの参画について



東京2020 NIPPONフェスティバルについて

1. 東京2020 NIPPONフェスティバルについて

「文化の祭典」としてのフェスティバル

東京2020 NIPPONフェスティバル (2020年4月頃～9月頃)

聖火リレーが始まり、世界からの注目が東京・日本へ大きく集まるこの時期に、国・自治体・文化団体等と連携し日本の文化・芸術の力を国内外に発信する文化フェスティバルを全国で展開。

目的

- ▶ 日本が誇る文化・芸術を、国内外に強く発信
- ▶ 文化・芸術を通じた共生社会の実現
- ▶ 聖火リレーと共に大会への参加機会を全国で創出

事業体系

主催

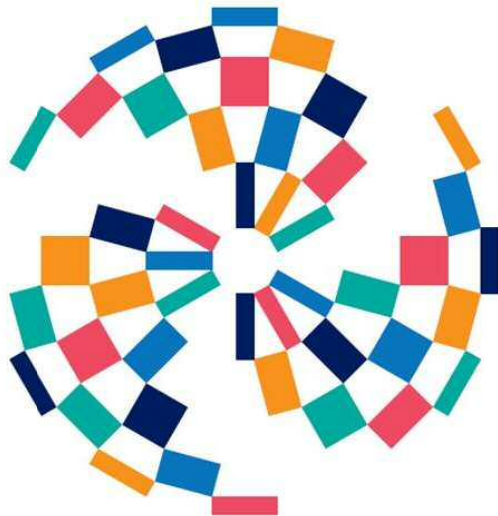
組織委員会が行う
4つの文化プログラム

+

共催

自治体等が行う特別な
文化プログラム

2. フェスティバルのマーク・コンセプト (2018年7月2日発表)



東京2020
NIPPON
フェスティバル

東京 2020 NIPPON フェスティバル コンセプト

東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、
全国でくり広げられる文化の祭典、それが東京 2020 NIPPON フェスティバルです。

日本にあらゆる国の人が集う本大会に先駆けて、
様々な人と文化が交流する場となるはずです。

地方と都市。日本と世界。

あらゆる境界を超え、ひとつになるその時。

きっと、かつてない文化が生まれるでしょう。

きっと、多様性の力と素晴らしさを実感するでしょう。

きっと、新たな文化と感動が未来につながってゆくでしょう。

その主役は、私たちひとりひとり。

そして舞台は、この国のあらゆるまちとまち。

日本各地の熱気と多様性の融合から、すべては始まります。

東京 2020 NIPPON フェスティバル。それは、
この国の新たな可能性を開くフェスティバルです。

3. 組織委員会が計画している文化プログラム

組織委員会は、フェスティバルの盛り上がりが全国に波及するよう、東京を中心に大規模な文化プログラムを計画しています。

時期	テーマ (位置づけ)	概要
2020年4月頃 (キックオフ)	大会に向けた 祝祭感	東西を代表する無形文化遺産・舞台芸術の融合による世界初の舞台を2020年の東京で実現
2020年7月頃 (オリンピック直前)	参加と交流	日本文化を通じて様々な人々が交流する場・イベントを創出。世界の心をつなげるフィナーレ
2020年8月頃 (パラリンピック直前)	共生社会の実現	障がいのある人やLGBTを含めた多様な人々が参画し、街中で様々なアートやパフォーマンス活動などを展開
2020年5月～7月頃	東北復興	東北各県と連携し、東北各地・東京を舞台とした文化プログラムを展開。国内外へ東北の現在の姿を発信

※ 詳細については、2019年春ごろに公表を予定しています。

共催文化プログラムの参画方法について

1. 東京2020大会の文化プログラムにおけるフェスティバルの位置づけ

大会との関連度

東京2020 NIPPONフェスティバル

組織委員会
主催文化プログラム

4件

自治体等との
共催文化プログラム

大会を象徴する
文化プログラムを創出し
国内外に強く発信

東京2020参画プログラム（東京2020文化オリンピック）

約2,600件（2018年10月時点）

大会機運の醸成
全国への面的な広がり

2. 共催文化プログラムの要件等

① 主な対象団体

以下の要件を全て満たす団体

- 国（各省庁）、地方自治体、文化芸術団体、その他組織委員会が認める団体
- 参画プログラムに参画している団体、又はその見込みがある団体

② 事業内容

基礎要件：東京2020大会を契機に実施される日本を代表する特別な文化プログラムであること

- 東京2020大会を契機に、日本が誇る文化・芸術として、世界へPRする意義が認められるもの
- それぞれの分野、同種の事業において、独自性や優位性が大きく認められるもの
- 新たに実施するもの、又は東京2020大会を契機に従前を超える特別な取組を実施するもの
- 東京2020大会終了後も、それぞれの地域にポジティブな影響を及ぼし、日本の文化・芸術の発展に寄与するもの
- プログラムに参加することで、多くの人々が、東京2020大会を実感できるもの

2. 共催文化プログラムの要件等

内容に関する要件（主なもの）

- 日本国内での実施
- 2020年4月頃から9月頃までの実施
- フェスティバルコンセプトに沿った取組
- 国内外に広く広報・PRし、地域外からも多くの参加者が見込まれること
 - （参加者数の目安）・公共空間等の屋外イベント：5000人以上（1日当たり）
 - ・ホール等の屋内イベント：1000人以上（1公演当たり）
- 障がいのある人や、高齢者、子供など、多様なニーズを有する人々も参加しやすい、アクセシブルな環境が整備されていること
- 多言語対応が適切に行われ、海外からの訪問者も参加しやすい環境が整備されていること

計画に当たっての留意事項（主なもの）

- アンブッシュマーケティングの恐れがないこと
- 事業の安全な実施が見込まれる警備計画が立てられていること

3. 実施主体（自治体等）と組織委員会の役割分担について

役割等	実施主体 (国、地方自治体等)	組織委員会
企画	○	—
運営（契約・設営・実施・撤去等）	○	—
警備	○	—
広報・PR	○	○
地域関係機関等（警察、消防、医療機関、公共交通機関、地域住民等）との調整	○	—
IOC・IPCとの調整	—	○
実施費用負担	○	—

4. 実施主体（自治体等）が活用できるプロパティ等

① 東京2020大会プロパティの活用等について

- フェスティバルマーク、「オリンピック」「パラリンピック」「東京2020大会」等の文言をはじめとした大会プロパティの使用
- 広報・PRツールの提供
- 大会マスコットの派遣
- 大会パートナーへの共催プログラムの紹介（協賛セールスのサポート）※事業内容によります。

② 広報・PRについて

- フェスティバル特設WEBサイト（今後、公開予定）による一体的な発信
- フェスティバルリーフレットによる周知
- 海外メディアへの情報提供

③ 国と連携したサポートについて

- 国の一部助成制度における連携（調整中）
- 国が行う広報・PRにおける優先的な取り扱い（調整中）

5. 連携に向けた手続きの流れ

①事前相談（随時）

- 共催文化プログラムへの参画意向の確認や、事業内容・実施時期等についての事前調整
- アンブッシュマーケティングの防止や安全面、権利関係など東京2020大会特有のルールと照らし確認

②実施主体（自治体等）からの事業計画提出

- 事前相談を経た案件について、所定の様式に企画概要を記入いただき提出（補足資料可）

③有識者による審議・助言

- 「東京2020 NIPPONフェスティバル共催文化プログラム検討部会（仮称）」において内容の審議及び必要に応じた助言

④IOC/IPCとの調整

- 必要に応じて、事業の内容や広報・PR面での協力等について調整

実施主体と組織委員会との間で**共催協定**の締結

6. 事前相談について

①趣旨

共催文化プログラムへの参画意向を示していただいた実施主体（自治体等）と、プログラムを計画する上での留意点等について、実施主体の計画に照らしながら個別具体的に意見交換し、共催協定書の締結に向けて必要な調整を実施

※ 事前相談に1か月以上要することが想定されます。

②申し込み方法

受付開始：2018年11月1日～

提出資料：ガイドライン様式1「東京2020 NIPPONフェスティバル 共催文化プログラム 事前相談申込書」

資料送付先：

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
企画財務局アクション&レガシー部 東京2020 NIPPONフェスティバル担当
メール：tokyo2020nipponfestival_support@tokyo2020.jp

7. 今後のスケジュール

